令和元年度

事業報告

日本赤十字社 和歌山県支部
Japanese Red Cross Society

Mission statement

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

人　道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
公　平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
中　立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
独　立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
奉　仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
単　一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目　　次

1　災害救護対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　国際活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

3　赤十字ボランティア　・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

4　青少年赤十字　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

5　赤十字各種講習　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

6　会員の増強と活動資金の増収　・・・・・・・・・・・　２２

7　広報活動の強化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

8　評議員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

9　決算概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

１　災害救護対応

国内において大規模災害等が発生した場合、日本赤十字社は、下記の災害救護活動を行います。

（１）医療救護
（２）こころのケア
（３）救援物資の備蓄と配分
（４）災害時の血液製剤の供給
（５）義援金の受付と配分

これらの災害救護活動は、赤十字事業の最重要事業の１つです。

また、このほかにも、住民の方々の様々なニーズに応じた活動を展開することとしています。

令和元年度において、当県支部では以下の救護活動を行いました。

★新型コロナウイルス感染症における救護活動

世界各国で感染が拡大し、国内でも猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症について、日本赤十字社では、赤十字病院における感染者の治療や輸血医療に必要な血液の確保、感染症拡大防止のための活動に取り組んでおります。

当支部においても、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班要員の派遣や感染予防への啓発活動や海外企業からの寄贈があったマスクを地区分区へ提供を行いました。

また、県内の医療事業や血液事業を支援するため、医療センターや血液センターに対しても、寄贈があったマスクの提供を行いました。

◆救護班要員の派遣

２月１４日から２月１６日にかけて、日本赤十字社和歌山医療センターの薬剤師１名が、ダイヤモンド・プリンセス号（神奈川県）での救護に従事。

◆地区分区へのマスク提供

２月２５日、３月２日、及び３月５日に、湯浅町ほか１市３町にサージカルマスクを計３万８千枚提供。

◆赤十字施設へのマスク提供

２月２６日にサージカルマスク４千枚、３月２６日にＮ９５マスク５千枚、及び５月１３日にサージカルマスク１千枚を、日本赤十字社歌山医療センターに提供。

２月２６日及び３月１９日にサージカルマスク２千枚ずつを、和歌山県赤十字血液センターに提供。

（１）医療救護

日本赤十字社は、医療救護を展開するため、全国の都道府県支部に 489 班、そのうち和歌山県支部に７班（１班あたりの編成は医師１人、看護師４人、薬剤師１人、主事１人）の常備救護班を編成し、災害時の初期医療から中長期にわたって被災地で活動を行える体制をとっています。

また、和歌山県と災害派遣医療チーム（DMAT）（※１）の派遣協定を締結しており、県からの派遣要請に備えています。現在、和歌山県支部では２チーム（１チームあたりの編成は、医師１人、看護師３人、業務調整員１人）、19 人の隊員が登録しています。

なお、日本赤十字社が行う災害救護活動に関する調整や、自治体、他の医療チームとの連携、調整業務等を行う、日赤災害医療コーディネートチームを１チーム（１チームあたりの編成は、コーディネーター１人・コーディネートスタッフ２人）登録しています。

令和元年度は、県内外で実施された次頁の防災関係機関等の訓練、研修等に参加しました。

（※１）DMAT とは、国が災害医療の体制整備の一環として整備した、災害の急性期（発災 48 時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた災害派遣チームのことです。

◇主な災害救護訓練・研修等◇

訓　　練　　名	実　施　日	実施場所	参加者・班・チーム
第1回日本赤十字社和歌山県支部常備救護班研修会	５月 11 日	和歌山医療センター	救護班員等
日本赤十字社第４ブロック（近畿２府４県）合同災害救護訓練	６月 15 日	滋　賀　県	常備救護班１班
和歌山県 DMAT ロジスティクス研修会	７月６日～７日	御　坊　市	DMAT 隊員
第１回全国赤十字救護班研修会	７月 14 日～16 日	本　　社	指導スタッフ
第２回全国赤十字救護班研修会	８月 24 日～26 日	大阪府支部	救護班要員、指導スタッフ
大規模地震時医療活動訓練	９月７日	神 奈 川 県	DMAT１チーム
第１回日赤災害医療コーディネート研修会	９月 14 日～15 日	本　　社	医師、看護師、主事、指導スタッフ
和歌山県石油コンビナート等総合防災訓練	10 月９日	海　南　市	常備救護班１班
2019 大規模津波防災総合訓練	11 月２日	和 歌 山 市	常備救護班１班
近畿地方 DMAT ブロック訓練	11 月 30 日	滋　賀　県	DMAT１チーム
第２回日赤災害医療コーディネート研修会	12 月７日～８日	本　　社	指導スタッフ
第2回日本赤十字社和歌山県支部常備救護班研修会	12 月 21 日	和歌山医療センター	救護班要員等
近畿地方 DMAT 技能維持研修会	１月 14 日～15 日	奈　良　県	DMAT 隊員
和歌山県国民保護共同実動訓練	１月 22 日	和 歌 山 市	常備救護班１班
第３回全国赤十字救護班研修会	２月１日～３日	東京都支部	指導スタッフ
救護員としての赤十字看護師研修	（通年）	和歌山医療センター	看護師

（２）こころのケア

大規模災害が発生した場合、多くの死傷者の発生や家屋の倒壊、ライフラインの途絶等の様々な要因により、被災者には、心に大きなダメージを受けることによる体調の変化など、身体的な症状となって表れることがあります。

日本赤十字社は、被災地の避難所や地域を巡回し、被災者の健康状態や身近な悩みなどを傾聴して、心理的支援を行うこころのケア要員を派遣します。

令和元年度は、下記の研修等を実施し、こころのケア要員及び指導者を養成しました。

◇こころのケア研修状況◇

研　修　会　名	実　施　日	実　施　場　所	養成者数
こころのケア研修	6月3日／7月16日	和歌山医療センター	１４人
こころのケア指導者養成研修	11月15日～17日	本　　社	１人

（３）救援物資の備蓄と配分

大規模災害の発生時には県市町等と調整を行い、当支部救護倉庫及び地区分区に備蓄している毛布や緊急セット等の救援物資を、被災された方々に届けます。

令和元年度の救援物資の備蓄数は、右表のとおりで、配分はありませんでした。

＜救援物資備蓄数（令和２年３月末現在）＞

品　目	備 蓄 数
毛布	3,002 枚
緊急セット	1,105ｾｯﾄ
安眠セット	270ｾｯﾄ
タオルケット	1,200 枚

緊急セット

（４）災害時の血液製剤の供給

災害時における血液製剤の円滑な確保、医療機関へ万全な供給が行えるよう体制を整えています。

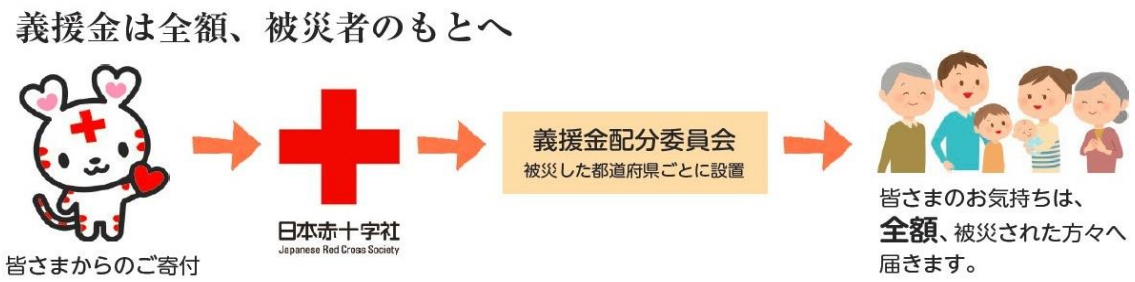
（５）義援金の受付

令和元年度において、国内で発生した大規模災害の被災者を支援するために受け付けた義援金は、以下のとおりです。

	義援金名	受付件数 （累計件数）	受付金額 （累計金額）
1	東日本大震災義援金	４件 (2,652 件)	41,362 円 (894,066,284 円)
2	平成 28 年熊本地震災害義援金	３件 (470 件)	7,611 円 (92,583,931 円)
3	平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	７件 (135 件)	229,790 円 (31,420,476 円)
4	平成 30 年北海道胆振東部地震災害義援金	４件 (47 件)	65,726 円 (2,305,028 円)
5	令和元年８月豪雨災害義援金	８件	293,685 円
6	令和元年台風第 15 号千葉県災害義援金	１６件	1,013,997 円
7	令和元年台風第 19 号災害義援金	７７件	13,030,650 円
	合　　計	１１９件	14,682,821 円

※　表中（　）内の金額及び件数は、該当する義援金の受付開催からの累計を示しています。

お寄せいただいた義援金は、手数料などを一切いただくことなく、被災地に設置された義援金配分委員会に送金し、義援金配分委員会からお見舞い金として、全額、被災された方々へお届けします。



（６）その他

① 小災害見舞品の配分

県内の小災害(※2)発生時には、その状況に応じて、毛布や緊急セット等の災害見舞品を地区分区を通じて配付します。

令和元年度は、毛布１１枚、緊急セット５個を配布しました。

(※２)小災害とは、火災や風水害等に起因する被害が災害救助法の適用に至らない規模の災害をいいます。

〈配分基準〉

品 目	配 分 基 準	配 分 数
毛布	（１）小災害で住家が全焼、全壊、流失した世帯 （２）半焼、半壊、床上浸水であっても長期間寝具等が使用不能であることが予想される世帯	原則として被災者１人あたり１枚
緊急セット	（１）小災害で住家が全焼、全壊、流失、半焼、半壊、床上浸水した世帯 （２）避難所等に避難を要する世帯	原則として１世帯（４人）あたり１個

② 災害救護装備等の充実

ア　災害発生時の使用施設の整備

災害時に 24 時間体制で対応にあたる救護員が待機できる場所として使用できるよう、支部社屋の３階和室の改修工事を行いました。

イ　救護装備の整備

常備救護班やＤＭＡＴの活動に必要となる下記の資機材を更新、整備しました。

資 機 材 名	数 量
ポータブルエコー	１式
携帯タブレット端末	３台
ポータブルプリンター	１台
ＤＭＡＴ隊員用ベスト	５着

ポータブルエコー

ウ　救護トラックへの装備

平成 31 年３月に本社から配備された救護トラックに、災害時、救護活動を効率よく行うための赤色灯や日赤業務無線等を装備しました。

エ　赤十字救護看護師の養成

通常の看護だけでなく、国内外での自然災害や紛争に際し、救護業務に従事できる赤十字救護看護師の養成を支援しました。

オ　救護員活動用備品の整備

災害時に支部社屋のトイレが断水等で使用できなくなった場合に備え、非常用トイレセットを８００セット整備しました。

カ　支部業務用無線基地局（新スプリアス規格対応）の更新

支部無線基地局設備の老朽化のため、150MHz 及び 400MHz の両基地局設備の更新を行いました。

整　備　内　容		
周　波　数	150MHz	400MHz
基地局無線装置	２台（定格出力 25ｗ）	２台（定格出力 10ｗ）
アンテナ （地上高 46ｍ）	ブラウン型アンテナ１本	コーリニア型アンテナ１本
遠隔制御装置	４台 （事務室・無線室・大会議室・和室）	４台 （事務室・無線室・大会議室・和室）

【屋上フロア　無線基地局】

【遠隔制御装置】

③ 防災・減災セミナーの実施

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、県内各地で住民の方々を対象とした防災・減災セミナーを実施しました。

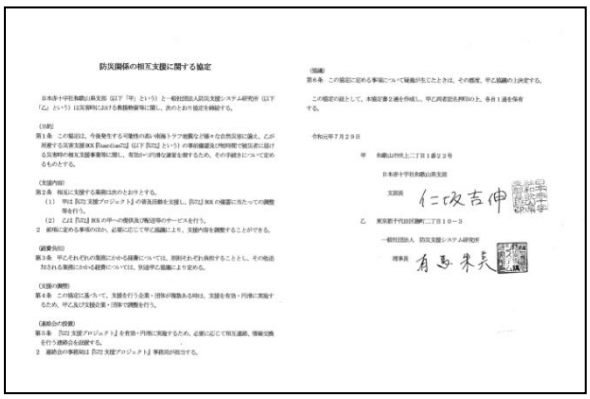
このセミナーは、「自分の命は自分で守る、地域の安全はみんなで守る」ことを主眼に置き、発災時の行動に役立てられるよう開催しているもので、令和元年度は以下のとおり実施しました。

また、このセミナーを指導するボランティア講師１人を養成し、現在、セミナー講師４人（職員１人・ボランティア講師３人）となっております。

開 催 地	実施回数	受講者数（人）
和歌山市	１０	８０１
海南市	1	５１
橋本市	1	２６
紀の川市	9	４９３
かつらぎ町	1	6
上富田町	1	５８０
白浜町	1	６３
計	２４	２，０２０

④ 防災関係の相互支援に関する協定の締結

当支部は、一般社団法人防災支援システム研究所が開発した、災害発生直後、特に３日間（72 時間）に必要な食料・生活用品（全４７品目）１人分を段ボール１箱に梱包された、災害支援 BOX「G（ガーディアン）72ＢＯＸ」を南海トラフ地震等の災害発生時に、被災者に役立てられるよう、令和元年７月２９日に一般社団法人防災支援システム研究所と、防災関係の相互支援に関する協定を締結しました。



防災関係の相互支援に関する協定

日本赤十字社和歌山県支部（以下「甲」という）と一般社団法人防災支援システム研究所（以下「乙」という）は災害時における相互協力等に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的）
第１条　この協定は、今後発生する可能性の高い南海トラフ地震など様々な自然災害に備え、乙が所有する災害支援BOX（Guardian72 以下「BOX」という）の事前備蓄及び利用等に関する相互支援事業等に関し、有効かつ的確な連携を図るため、その手続きについて定めるものとする。

（支援内容）
第２条　相互に支援する業務は次のとおりとする。
（１）　甲は【BOX 支援プロジェクト】の普及活動を支援し、【BOX】の備蓄に当たっての調整等を行う。
（２）　乙は【BOX】の甲への相互及び地域住民へのサービスを行う。
２　前項に定める事項のほか、必要に応じて甲と協議により、支援内容を調整することができる。

（費用負担）
第３条　甲と乙それぞれの業務にかかる経費については、別段それぞれ負担することとし、その他協力される業務にかかる経費については、別途甲と協議により定める。

（支援の調整）
第４条　この協定に基づいて、支援を行う企業・団体が複数ある時は、支援を有効・円滑に実施するため、甲と乙は支援企業・団体で調整を行う。

（連絡会の設置）
第５条　【BOX 支援プロジェクト】を有効・円滑に実施するため、必要に応じて相互連絡、情報交換を行う連絡会を設置する。
２　連絡会の事務局は【BOX 支援プロジェクト】事務局が担当する。

（協議）
第６条　この協定に定める事項について疑義が生じたときは、その都度、甲と乙協議の上決定する。

この協定の証として、本協定書２通を作成し、甲と両者記名押印の上、各自１通を保有する。

令和元年７月２９日

甲　和歌山市杭ノ上二丁目１番２２号
日本赤十字社和歌山県支部
支部長　仁改吉伸

乙　東京都千代田区麹町二丁目１０－３
一般社団法人　防災支援システム研究所
理事長　有馬朱美

『 G７２ BOX 』内 容 品
【食　　品】アルファ米/お粥(7 食)、パン(2 食)、スープ(1 食) 計 10 食
【飲　　料】野菜ジュース・3 本、水 2L/2 本、500ml/4 本
【衣　　類】T シャツ 2 枚(男女兼用)、子供用 T シャツ 1 枚、下着(男女各 1 枚)、靴下 2 足
【衛生用品】拭くだけシャンプー、身体拭き、手口用拭き取りナップ、液体歯磨き、綿棒、化粧落とし、生理用品、赤ちゃんオムツ、大人用オムツ、簡易トイレ(15 回分)、タオル、ティッシュペーパー、傷テープ
【防災用品】携帯用ライト、マスク、軍手、ブランケットシート、発熱剤、ビニール、リュック、 笛
(※商品はいずれも、特定メーカーのものに限定していない)

２　国際活動

（１）国際救援活動

日本赤十字社では、世界各地で続発している自然災害等の被災者や難民の支援のために、医療救援スタッフを現地に派遣し、緊急救援活動を行っています。

また、被災地の復興支援活動や保健衛生・災害対策など長期的な支援として開発支援を行っています。

（２）海外救援金の受付

海外で発生した大災害の被害者や紛争による難民などを支援するために受け付けた海外救援金は、以下のとおりです。

また、令和元年 12 月１日から 25 日まで、日本放送協会（ＮＨＫ）及びＮＨＫ厚生文化事業団との共催で、「ＮＨＫ海外たすけあい」キャンペーンを実施しました。

	海外救援金名	受付件数 （累計件数）	受付金額 （累計金額）
1	バングラデシュ南部避難民救援金	１件 （３件）	100,000 円 (202,910 円)
2	青少年赤十字１円玉募金	３件	24,174 円
3	ＮＨＫ海外たすけあい	１０８件	3,100,275 円
	合　　計	１１２件	3,224,449 円

キャンペーンでは、県内各赤十字奉仕団の協力を得るとともに、ＮＨＫ和歌山放送局内に受付窓口を設置して、ご協力をいただけるようお願いしました。

お寄せいただいた海外救援金は、日本赤十字社や国際赤十字、被災国の赤十字社・赤新月社が現地で行う救援活動・復興支援活動などの資金として活用されます。

※表中（　）内の金額及び件数は、該当する海外救援金の受付開始からの累計を示しています。

（３）安否調査

武力紛争や、家族の離散等によって行方不明になっている身内の安否確認の依頼に対し、赤十字の「公平」、「中立」の原則に基づいて行方不明者の所在等の情報を収集し、家族に安否を伝えています。

令和元年度ては、１件の調査依頼に応じました。

３　赤十字ボランティア

（１）地域赤十字奉仕団

① 赤十字奉仕団組織の強化

県内の地区分区単位に結成されている奉仕団及び団員数は、令和２年３月 31 日、現在 51 団、6,649 人となっております。

奉仕団員の方々には、それぞれの地域で実施される防災訓練や社会福祉活動への参加、また、活動資金及び献血への協力の呼びかけ等の活動を積極的に行っていただきました。

地域赤十字奉仕団結成状況は、別表（１３頁に掲載）のとおりとなっています。

② 赤十字奉仕団委員長会議の開催

赤十字事業の推進や奉仕団活動の充実強化を図るため、委員長会議を年３回開催しました。

第１回　平成３１年　４月１７日（本県支部にて開催）
第２回　令和 元 年　７月１６日（本県支部にて開催）
第３回　令和 元 年１１月１９日（本県支部にて開催）

③ 和歌山県赤十字奉仕団員研修会の開催

令和元年９月５日から６日（１泊２日）の日程で、白浜町のホテルにおいて、地域の奉仕活動の中心となって推進していくための知識や技術、また、これからの奉仕活動を担っていただく団員、総勢 60 人に参加していただき「和歌山県赤十字奉仕団員研修会」を開催しました。

研修会では、「赤十字この一年」のＤＶＤ視聴に始まり、「日本赤十字社現勢」「赤十字の歴史」、「災害への備え」の講話聴講、また、２日目のグループワークでは、危険な場所の把握や避難経路を参加者が自ら考え、話し合う「防災マップつくり」を実施して、地域でも活かせる有意義な研修となりました。

④ 和歌山県赤十字奉仕団大会の開催

令和元年 10 月 29 日に、日本赤十字社和歌山医療センターの多目的ホールにおいて、来賓、功労表彰受賞者、奉仕団委員長、地区分区担当者が出席して、日頃の奉仕団員の活動を称え、特に功労顕著な委員長や団員に対して有功章や各種功労表彰を贈呈する第 30 回和歌山県赤十字奉仕団大会を開催しました。

式典では、仁坂吉伸支部長から、永年にわたり奉仕活動に尽くされた奉仕団員への各種有功章と支部長感謝状が贈られ、式典終了後には、日本赤十字社和歌山医療センター医療社会事業部長から、「災害発生時の赤十字活動について」と題した講演をいただき、参加した団員の方々の関心を得ることが出来ました。

◇第３０回 和歌山県赤十字奉仕団大会における受章者数◇

種別	受賞者数	
	個人（人）	団体（団）
金色有功章	3	1
銀色有功章	5	－
支部長感謝状（金枠）	１０	－
支部長感謝状（銀枠）	６４	－

⑤ モデル奉仕団活動の促進

令和元年度、他の奉仕団にも取り入れていただきたい模範的な活動を実施した太地町赤十字奉仕団に対し活動助成金を交付し、よりよい活動を進めていただけるよう支援しました。

⑥ 広報紙「奉仕団だより」の作成

平成 26 年度から毎年継続して発行している「和歌山県奉仕団だより」の第６号を発行し、県下の全赤十字奉仕団員に配付しました。

⑦ 手作りマスクの作製・贈呈

新型コロナウイルス感染防止に役立てて欲しいとの思いから、一部の地域奉仕団が手作りマスクを作製し、公共団体に贈呈しました。

・田辺市田辺奉仕団　　１５０枚 ⇒ 田 辺 市（令和２年４月１４日）
・有田川町吉備奉仕団　５２５枚 ⇒ 有田川町（令和２年４月２４日）
・有田市奉仕団　　１，２２６枚 ⇒ 有田市教育委員会（令和２年４月２７日）

【別表】

◇地域赤十字奉仕団結成状況◇

（令和２年３月３１日現在）

	区　分	結成数	男性（人）	女性（人）	合計（人）
市地区地域奉仕団	和歌山市	１９	１６６	１，２２６	１，３９２
	海 南 市	２	２０	１８６	２０６
	橋 本 市	１	３７	２５	６２
	有 田 市	１	２	３４６	３４８
	御 坊 市	１	１３	２００	２１３
	田 辺 市	５	６４	４５４	５１８
	新 宮 市	１	２４	１９６	２２０
	紀の川市	５	２７８	１，４１４	１，６９２
	岩 出 市	１	２６	２６４	２９０
	小　計	**３６**	**６３０**	**４，３１１**	**４，９４１**

	区　分	結成数	男性（人）	女性（人）	合計（人）
郡地区奉仕団	海 草 郡	１	２	３７	３９
	伊 都 郡	２	１０	２７３	２８３
	有 田 郡	１	１	２３３	２３４
	日 高 郡	２	１	３８	３９
	西牟婁郡	４	１７０	４１６	５８６
	東牟婁郡	５	４４	４８３	５２７
	小　計	**１５**	**２２８**	**１，４８０**	**１，７０８**
合　　計		**５１**	**８５８**	**５，７９１**	**６，６４９**

（２）青年赤十字奉仕団

青年赤十字奉仕団は、社会人や学生等で構成されており、当支部には和歌山赤十字看護専門学校に結成された「和歌山県赤十字特別看護奉仕団」、近畿大学生物理工学部に結成された「近畿大学生物理工学部学生赤十字奉仕団」、及び和歌山大学に結成された「和歌山大学和歌山ＡＳＥＡＮプロジェクト学生赤十字奉仕団」があります。

各奉仕団の結成状況及び活動・研修会については以下のとおりです。

◇青年赤十字奉仕団結成状況◇

団　　名　（　）内は略称	男（人）	女（人）	合計（人）
和歌山県赤十字特別看護奉仕団（看護奉仕団）	１２	５８	７０
近畿大学　生物理工学部学生赤十字奉仕団（近大学生奉仕団）	２９	１２	４１
和歌山大学　和歌山ＡＳＥＡＮプロジェクト学生赤十字奉仕団（ＷＡＰ奉仕団）	３１	３３	６４

◇主な活動・研修会◇

活動・研修会名	活動場所	活動奉仕団名（略称）	内　　容
ＮＨＫ海外たすけあい街頭募金	ＪＲ和歌山駅等	看護奉仕団 近大学生奉仕団 ＷＡＰ奉仕団	街頭募金活動
和歌山県青少年赤十字トレーニングセンター運営支援	紀北青少年の家	看護奉仕団	運営支援活動
環境問題に関する特別課外授業	大新小学校	ＷＡＰ奉仕団	講義・レクリエーション
和歌山県青年赤十字奉仕団基礎研修会	和歌山県支部	看護奉仕団 近大学生奉仕団 ＷＡＰ奉仕団	新団員対象研修
第４ブロック青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会	兵庫県	近大学生奉仕団 ＷＡＰ奉仕団	リーダー養成研修

（３）特殊奉仕団

① 和歌山県赤十字特別救護隊

昭和 39 年にアマチュア無線の有資格者により結成された特殊赤十字奉仕団で、災害時の救援、輸送及び通信を主な目的として活動しており、現在、６つの地域に分隊が置かれ、それらを合わせて 51 人が隊員として登録しています。

◇和歌山県赤十字特別救護隊構成状況◇

分隊名	隊員数（人）
紀　北	１３
和歌山	１１
有　田	１２
中　紀	1
紀　南	5
泉	9
計	５１

◇主な活動状況◇

訓練・研修会名	実施場所	内容
和歌山県赤十字特別救護隊宿泊研修会	串 本 町	基礎研修・資機材の取扱について
２０１９大規模津波防災総合訓練	和歌山市	アマチュア無線通信訓練

② 障害者支援赤十字奉仕団

平成 16 年に結成された障害者支援赤十字奉仕団「グループあかり」は、県内の盲学校やボランティアグループ等と連携して、視覚障害児童・生徒への支援活動を行っています。

令和元年度も視覚障害により市販の本を読むことが困難な児童等のために、文字や絵を大きくして見やすく工夫した拡大写本や布絵本などの作品を手作りで製作し、支援学校や障害児施設等に寄贈しました。

◇今年度の主な製作品◇

作品名	作品数
布絵本「だるまさんの」	1
布絵本「だるまさんが」	1
布絵本「きんぎょがにげた」	1
タペストリー「ぞうくんのおさんぽ」	1
タペストリー「ねずみのでんしゃ」	1
防災教材「ぼうさいまちがいさがし　きけんはっけんルーム」	1
着ぐるみ「ハートラちゃん」	1

③ 和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団

平成 16 年に結成された和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団は、小・中・高等学校の退職教員等により組織され、県内の学校への加盟促進や青少年赤十字メンバーの育成に協力しています。

令和元年度においては、和歌山県青少年赤十字トレーニングセンター（令和元年８月８日～９日開催）にて２人の団員が赤十字の歴史や活動に役立つ知識などの指導にあたりました。

また、４Ｂ青少年赤十字賛助奉仕団交流研修会（令和元年１０月１７日～１８日）が滋賀県で開催され２名の団員が参加しました。

（4）赤十字個人ボランティア

災害時の支援活動や講習会での指導など赤十字が行う活動を自主的に支援してくださる個人ボランティアの募集を行っています。

令和元年度の登録数は、右表のとおりとなっております。

活動内容	人数
防災減災講習での指導者	1
災害時の活動支援等	9
青少年活動、レクリエーション指導 等	2
計	１２

４　青少年赤十字

（１）青少年赤十字加盟校と青少年赤十字メンバー

青少年赤十字は、将来を担う子供たちが赤十字を正しく理解し、思いやりの心を身に付け、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、教師が指導者となり学校教育の中で進められる青少年育成事業です。

令和２年３月末現在で、和歌山県内の７９校（園）が加盟しており、21,248 人のメンバーが活動に参加しています。

	令和元年度				平成 30 年度			
	県内学校数（校）	加盟校数（校・園）	加盟率（%）	生徒数（人）	県内学校数（校）	加盟校数（校・園）	加盟率（%）	生徒数（人）
幼稚園・保育所		５		393		１		46
小学校	２４９	２４	9%	7,090	２５５	２４	9%	7,116
中学校	１２９	９	6%	1,615	１３１	９	6%	2,367
高等学校	４７	４０	85%	11,982	４７	４２	89%	12,798
特別支援学校	１２	１	8%	168	１２	１	8%	173
合計	４３７	７９		21,248	４４５	７７		22,500

※ 県内学校数は文部科学省発表『学校基本調査（確定値）』による。
※ 加盟率は県内学校数に対する青少年赤十字加盟校数の比率。

（２）和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの開催

赤十字の人道・博愛の精神に基づいて、「気づき、考え、実行する」という態度目標を、宿泊型の研修の中で身に付けるものです。

令和元年度は、以下のとおり実施しました。

開 催 日	会　場	参加者数（人）	内　　容
８月８日 ～９日	紀北青少年の家	小学生　１４人 高校生　　６人	赤十字・青少年赤十字について/福祉体験/健康生活/災害学習/フィールドワーク他

福祉体験（高齢者疑似体験）

（３）和歌山県青少年赤十字高校生研修会の開催

赤十字への理解を深め、青少年赤十字活動の活性化を図るため、県内加盟校の高校生メンバーを対象とした研修会を３月に開催を予定していましたが、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、開催を中止しました。

（４）青少年赤十字防災教育推進事業の実施

自然災害についての知識や、自ら考え判断して危険から身を守る方法を学ぶ「青少年赤十字防災教育プロクラム」の普及に努めるため、県教育委員会が主催している共育支援メニューフェアにおいて、教材等の展示を行いました。

（５）和歌山県青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字指導者協議会は、加盟校の校長や教諭等で組織され、加盟校での青少年赤十字活動の指導法や普及促進などについて協議し、加盟校間の連携を図っています。

令和元年度は、以下の活動を行いました。

開催日	会議・研修会等	開催地	参加者
5月23日～26日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	東　京　都	教諭１名
6月7日	和歌山県青少年赤十字指導者協議会	県　支　部	会長、副会長他９人
6月15日～16日	第4ブロック青少年赤十字指導者研修会	大　阪　府	教諭１名
6月24～25日	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	本　　社	会長
8月8日～9日	和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター	かつらぎ町	会長他５人

５　赤十字各種講習

人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を、ひとりでも多くの方に知っていただくため、救急法等の各種講習を行いました。支部主催での実施はもとより、地区分区をはじめ、奉仕団、学校、企業、団体等からの依頼にも積極的に応じ、知識と技術の普及に努めました。

（１）救急法

不慮の事故や急病の発生に際し、直ちに手当が必要な傷病者に対する救命手当の方法（胸骨圧迫や人工呼吸の方法、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用方法）を習得する救急法基礎講習、医師に引き渡すまでに病状の悪化を防ぐための応急手当の方法（急病やけがの手当、搬送方法等）を習得する救急法救急員養成講習、また、救急法基礎講習や救急法救急員養成講習全課程の中から選択して習得する短期講習を実施しました。

◇救急法講習の実施状況◇

講　習　名	実施回数	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
基礎講習	１１	３１２	３１２	３１２
救急員養成講習	８	２０２	２０２	２０２
短期講習	７７	３，９５１	－	－
合　計	９６	４，４６５	５１４	５１４

（２）水上安全法

水の事故から人命を守るために必要な方法（泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法）を習得する水上安全法救助員養成講習や、水上安全法救助員養成講習全課程の中から選択して習得する短期講習を実施しました。

◇水上安全法講習の実施状況◇

講　習　名	実施回数	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
救助員養成講習	１	７	７	７
短期講習	９	３１６	－	－
合　計	１０	３２３	７	７

（３）健康生活支援講習

高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術や、高齢期を迎えた方にも役立つ健康維持の知識を習得する健康生活支援員養成講習や、健康生活支援員養成講習の全課程の中から選択して習得する短期講習を実施しました。

◇健康生活支援講習の実施状況◇

講　習　名	実施回数	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
支援員養成講習	２	４２	４２	４１
短期講習	２５	７３６	－	－
合　計	２７	７７８	４２	４１

（４）幼児安全法講習

子どもに起こりやすい事故や病気の予防と手当を習得する幼児安全法支援員養成講習や、幼児安全法支援員養成講習全課程の中から選択して習得する短期講習を実施しました。

◇幼児安全法講習の実施状況◇

講　習　名	実施回数	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
支援員養成講習	３	２３	２３	２２
短期講習	１４	８６５	－	－
合　計	１７	８８８	２３	２２

６　会員の増強と活動資金の増収

（１）赤十字思想の普及

日本赤十字社は、会員をはじめとした多くの方々からいただく活動資金によって運営されており、赤十字思想の普及のため５月の赤十字運動への理解や協力を啓発するとともに、広報紙、テレビ・ラジオＣＭ、ポスター等を通じて普及に努めました。

（２）地区分区組織の強化

①赤十字事業事務担当者会議の開催

平成 31 年４月 25 日に当支部において、赤十字事業事務担当者会議を開催し、２４地区分区（２８名）の赤十字担当職員に参加していただきました。

会議では、活動資金の募集や地区分区担当者にお願いさせていただく業務等について事務局から説明を行いました。

また、日本赤十字社和歌山医療センターの施設概況及び和歌山県内の血液事業概況について、施設担当者から説明を行いました。

（３）活動資金の増強

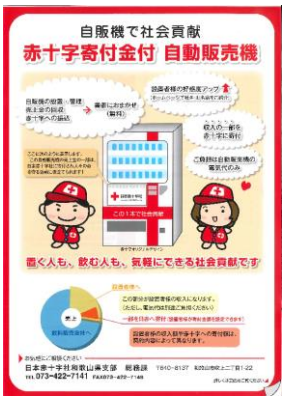
① ダイレクトメールの送付

赤十字活動にご支援をいただけるよう、県内の法人や団体、また、高額寄付協力者や過去に義援金や海外救援金に協力していただいた個人の方々に対して、広報紙「日赤和歌山」と郵便払込用紙を同封したダイレクトメール 22,372 通（法人 18,666 件、個人 3,706 件）を発送し、活動資金の増強に努めました。

② 寄付金付自動販売機の増設

広報紙「日赤和歌山」や当支部ホームページへの掲載を通して、寄付金付自動販売機の設置のお願いをさせていただきました。

引き続き、県内の個人や法人の方々に設置協力のお願いをしてまいります。



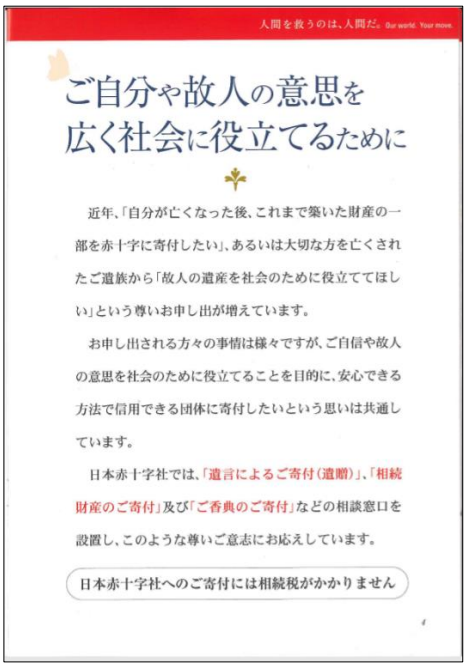
③ 赤十字善意箱の増設

地区分区及び奉仕団員等の協力を得て、地区分区や一般の会社等の窓口・店頭に赤十字善意箱（募金箱）の設置をお願いしました。

引き続き、善意箱の設置拡充に努めてまいります。

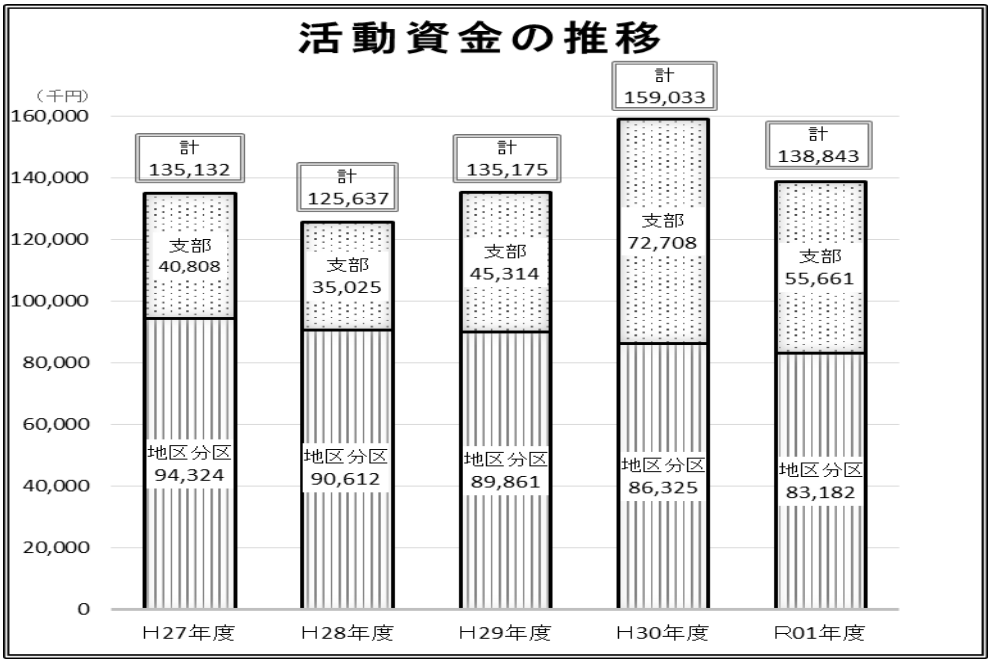
④ 遺贈・相続財産・香典寄付の受付

遺言により、自分の築いた財産を寄付する「遺贈」、ご遺族の方が相続した財産を寄付する「相続財産の寄付」、そしてご葬儀等でお香典をいただいた方々へお香典返しをする代わりに寄付をする「香典寄付」を安心して赤十字へ寄付していただけるよう引き続き専用パンフレットを活用して、遺贈寄付等への受付に努めてまいります。



（５）活動資金の推移

上記のとおり活動資金の増強に努めた結果、県内の個人、法人及び団体の方々からのご支援により、138,843 千円（個人住民税に係る寄付金控除の対象となった海外救援金を除く）となり、対前年度比では 20,190 千円の減額となりました。



◇対前年度活動資金募集実績額内訳比較表◇　（金額は千円単位）

項　目			平成30年度	令和元年度	増　減	比率（%）
支部扱い	会　費	一般(個人・団体)	42,216	37,357	-4,859	-11.5%
		法　人	14,434	13,206	-1,228	-8.5%
		小　計	**56,650**	**50,563**	**-6,087**	**-10.7%**
	寄付金	一般(個人・団体)	13,278	2,698	-10,580	-79.7%
		法　人	2,780	2,400	-380	-13.7%
		小　計	**16,058**	**5,098**	**-10,960**	**-68.3%**
	合　計	一般(個人・団体)	55,494	40,055	-15,439	-27.8%
		法　人	17,214	15,606	-1,608	-9.3%
		合　計	**72,708**	**55,661**	**-17,047**	**-23.4%**
地区分区扱い	会　費	一般(個人・団体)	83,846	81,276	-2,570	-3.1%
		法　人	770	1,120	350	45.5%
		小　計	**84,616**	**82,396**	**-2,220**	**-2.6%**
	寄付金	一般(個人・団体)	1,569	686	-883	-56.3%
		法　人	140	100	-40	-28.6%
		小　計	**1,709**	**786**	**-923**	**-54.0%**
	合　計	一般(個人・団体)	85,415	81,962	-3,453	-4.0%
		法　人	910	1,220	310	34.1%
		合　計	**86,325**	**83,182**	**-3,143**	**-3.6%**
活動資金総計			**159,033**	**138,843**	**-20,190**	**-12.7%**

７　広報活動の強化

（１）赤十字の広報活動の強化

① 広報紙「日赤和歌山」発行

平成元年度の上半期の主なイベントや赤十字思想の普及と会員増強を図るため、令和元年 11 月と令和２年２月の２回、広報誌「日赤和歌山」を発行し、県民の皆様に配布（回覧）しました。

【１１月発行日赤和歌山】

「外面」

「中面」

【２月発行日赤和歌山】

「外面」

「中面」

② 赤十字ＮＥＷＳの配付

本社が毎月発行する「赤十字ＮＥＷＳ」を支部役員、評議員、地区分区長、奉仕団委員長、和歌山県日赤有功会員、青少年赤十字加盟校長および大口活動資金協力者等へ配布しました。

赤十字会員の方々へは、予算概要及び決算概要について報告させていただくために、赤十字ＮＥＷＳを平成 31 年４月と、平成元年７月に送付しました。

③ 支部ホームページによるＰＲ

支部ホームページに適宜活動実績等を掲掲載載し、幅広い方々に対して新着情報を提供し、赤十字活動のＰＲに努めました。

④ 路線バス内放送によるＰＲ

路線バス内で、南海和歌山市駅停留所をはじめとした和歌山市内の停留所 15 ヶ所の停留所名を案内する際、併せて音声放送及び映像広告を年間約 79,4 万回放映し、赤十字活動のＰＲを行いました。

⑤ テレビ放映・ラジオ放送による赤十字活動ＰＲ

「夏の高校野球和歌山大会」開催期間中、テレビＣＭ「時代を超えて救う」を有償にて、放映しました。

また、年間を通しても、上記テレビＣＭをテレビ放送局のご協力により無償で放映しました。

更に、5 月の赤十字運動月間には、ラジオ放送局のご協力により無償でＣＭを放送しました。

上記のように赤十字活動のＰＲに努めました。

・テレビＣＭ「時代を超えて救う」

（1）

昔も

（2）

今も

（3）

災害で苦しんでいる人を

（４）

（５）

これからも 救うことをつづける

（６）

活動資金へのご協力を、
よろしくお願いいたします。

⑥ 赤十字広報ポスター及びリーフレットの配布による赤十字活動ＰＲ

本社が作成した赤十字広報ポスターや活動紹介リーフレットを地区分区、大手スーパー各店舗および関係各所に掲示していただくようお願いし、赤十字活動のＰＲに努めました。

年間ポスター

月間ポスター

（２）赤十字運動月間（５月）

① 周知キャンペーンの展開

令和元年５月１日から 31 日の赤十字運動月間には、地域赤十字奉仕団員のご協力を得て、ＪＲ和歌山駅など県内各地で「赤十字運動月間周知キャンペーン」を展開し、ポケットティッシュの配布や赤十字会員の募集を啓発する活動を行いました。

また、地元地域で清掃を行うクリーンキャンペーンも同時に実施しました。

② 懸垂幕の掲出

赤十字運動月間中、多くの方々に赤十字運動月間を知って頂くため、懸垂幕を和歌山市内ホテルに掲出し、活動資金募集のＰＲに努めました。

③ 和歌山県日赤会館建物外壁への横断幕の掲出

県支部が所在する日赤会館の２階と３階の壁面に赤十字広報横断幕を掲出し、活動資金の募集や赤十字運動月間のＰＲを行いました。

④ ＪＲ西日本管内普通電車内への広告掲出

第４ブロック各支部の赤十字運動月間合同広報として、令和元年５月１日から 31 日の間ＪＲ西日本電車内に、本社作成の赤十字広報ポスターを掲出しました。

８　評議員会

支部の重要な業務についての審議や、支部長、副支部長等の役員の選出等を行う評議員会は、会員の中から選出された評議員をもって組織されます。

令和元年度に開催した評議員会の概要は、以下のとおりです。

開催日	付議事項	報告事項等
令和元年 ５月２４日（金）	・役員（副支部長、監査委員）の選出について	【※文書による審議（日付は文書の施行日）】
令和元年 ６月１１日（火）	・支部事業報告及び歳入歳出決算 ・医療センター事業報告及び歳入歳出決算	・役員選出の文書審議結果 ・支部歳入歳出補正予算 ・医療センター歳入歳出補正予算 ・血液センター事業報告
令和２年 ２月１８日（火）	・役員（監査委員）の選出について ・支部事業計画及び歳入歳出予算 ・医療センター事業計画及び歳入歳出予算 ・血液センター事業計画	・医療センター歳入歳出補正予算

【支部役員名簿　※令和２年３月３１日時点】

役　職	氏　名
支部長	仁坂　吉伸
副支部長	小谷　芳正
〃	宮本　浩之
（当支部選出）本社理事	木谷　聡一
（〃）本社代議員	石井　太郎
〃	岡本　政仁

役　職	氏　名
監査委員	野志　幸生
〃	西平　都紀子
顧問	髙垣　博明
参与	志場　紀之
参与	佐谷　圭造

【評議員名簿　※令和２年３月３１日時点】

選 出 別	氏　名
支部長選出	島　正博
〃	木谷　聡一
〃	中谷　弘
〃	大桑　堉嗣
〃	勝本　僖一
〃	小向　俊和
〃	岡本　政仁
〃	中岡　俊明
和歌山市地区	石井　太郎
〃	前島　五十昭
〃	南出　帥治
〃	尾家　賢司
〃	（ 欠　員 ）
海南市地区	島津　英継
〃	仲　恭伸
橋本市地区	西山　嘉造
〃	坂本　安弘
有田市地区	宮﨑　三穂子
〃	古家　宣美
御坊市地区	柴本　勝治

選 出 別	氏　名
御坊市地区	米倉　守
田辺市地区	愛瀬　美智子
〃	山田　友昭
新宮市地区	榎本　義清
〃	大谷　康央
紀の川市地区	中村　愼司
〃	赤井　美佐子
岩出市地区	中芝　正幸
〃	家原　みや子
海草地区	吉村　耕治
伊都地区	内海　照隆
〃	中阪　雅則
有田地区	上山　章善
〃	北村　忠治
日高地区	日裏　勝己
〃	植田　英明
西牟婁地区	岩田　勉
〃	戸梶　章子
東牟婁地区	田嶋　勝正
〃	和田　千明

９　決算概要

【令和元年度一般会計（和歌山県支部）歳入・歳出決算概要】

歳　入

項目	決算額（千円）	比率	備考
社資収入	138,843	61.9%	
委託金収入	938	0.4%	平成30年西日本豪雨災害における救護活動費用補償
補助金及び交付金収入	9,469	4.2%	本社からの交付金
資産収入	41,385	18.5%	和歌山県日赤会館に入居するテナントからの賃料等
雑収入	6,511	2.9%	講習で使用する教材の頒布収入、貸会議室の利用収入等
前年度繰越金	27,008	12.0%	
歳入合計	224,154		

歳　出

項目	決算額（千円）	比率	備考
災害救護事業費	30,123	14.7%	救護訓練の実施や救護資機材の整備等に要した費用
社会活動費	23,543	11.5%	救急法等の普及、奉仕団や青少年赤十字の育成等に要した費用
国際活動･本社活動費	20,301	9.9%	国際的、全国的な活動のために拠出した費用
地区分区交付金支出	12,477	6.1%	市町村への赤十字活動交付金
社業振興費	26,472	12.9%	活動資金の募集や広報活動に要した費用
積立金支出	39,085	19.1%	災害に備えるための資金への積立金等
一般管理･資産管理費	52,990	25.8%	業務運営に要した人件費や物品等購入費、 日赤会館の維持管理に要した費用等
歳出合計	204,991		

歳入歳出差額（翌年度繰越額）　19,163　千円

地区別事業実績等概況表（令和元年度）

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

		市地区									郡地区						合計
		和歌山市	海南市	橋本市	有田市	御坊市	田辺市	新宮市	紀の川市	岩出市	海草	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	
救援物資配付数	毛布	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	0	0	3	11
	緊急セット	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	5
講習実施回数及び受講者数	救急法 実施回数	84	0	6	0	0	1	0	5	1	0	2	0	2	1	2	104
	救急法 受講者数	3,895	0	284	0	0	15	0	241	36	0	100	0	40	11	45	4,667
	水上安全法 実施回数	10	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
	水上安全法 受講者数	256	0	20	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	337
	健康生活支援 実施回数	22	1	2	6	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	35
	健康生活支援 受講者数	641	50	70	150	49	0	0	0	0	20	0	20	0	30	0	1,030
	幼児安全法 実施回数	13	2	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	幼児安全法 受講者数	567	30	21	0	0	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	918
	防災・減災セミナー 実施回数	10	1	1	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	2	0	24
	防災・減災セミナー 受講者数	801	51	26	0	0	0	0	493	0	0	6	0	0	643	0	2,020
	合計 実施回数	139	4	13	6	1	4	0	14	2	1	3	1	2	4	2	196
	合計 受講者数	6,160	131	421	150	49	315	0	734	97	20	106	20	40	684	45	8,972
地域奉仕団	団数	19	2	1	1	1	5	1	5	1	1	2	1	2	4	5	51
	団員数	1,392	206	62	348	213	518	220	1,692	290	39	283	234	39	586	527	6,649
青年・特殊奉仕団	団数																6
	団員数																237
青少年赤十字	加盟校数	33	1	10	2	4	6	2	4	1	2	6	4	2	1	1	79
	メンバー数	9,779	17	2,191	833	714	2,021	966	893	13	33	1,344	948	587	643	266	21,248